

# 「はるけき流れ」に 呆然としました

21期 まんと 萬戸 ただとし 唯利

皆様の素晴らしい人生観、歴史を知り、しばらく呆然としていました。

そうだったのか、あの方にはこんな人生、悩み、夢があったのかとただ圧倒されて一気に読みました。そして17歳の少年にタイムスリップしました。

この感激はなんだろうとあらためて考えました。

ひとつは、いずれの文章も共通の思い出をもつ人が共通の時代に生きてきた人に対する告白文であることだと気がつきました。

「聞いてください。わたしはこんな人生を生きてきました」という筆者の告白なのでしょう。

その告白には、てらい、おごり、うそはなく、人生に対する自信と他人に他する思いやりがあふれています。行間にその人の素晴らしい人生観がにじみ出ています。わたしはこの自信と思いやりに満ちた人生観に共感します。筆者の告白をそのまま、自分の人生に重ねることができるからです。同時に告白する人の人生に「おめでとう。君は素晴らしい」の賛辞を贈りたくになります。

もうひとつは人生に対する前向きな姿勢です。告白だけでは人をひきつけることはできません。どなたも、どんな環境、時代にでも対応できる力と心の強さをもっておられます。功なり名を遂げた人も、市井の片隅に生きてきた人もすべての方に共通することは人生に積極的に向き合い逃げない姿が見えます。

戦前派の皆様にも60期代の皆様にもそれはまったく同じです。日本は敗戦、バブル崩壊、阪神大震災にみまわれてきましたが、そのたびに不死鳥のようによみがえりました。このたびの東北大震災にもめげることなく復活します。

私たちはどんな困難な時代でも力強く生きてきました。それができる仲間が身近に、北辰会の皆様がいるとあらためて教えられました。

出張先で級友の活躍も聞きました。阪神大震災への思いやりを忘れず竹ろうそくを贈る人、赤穂城のガイドなどで町おこしをされるかたなどを知りました。北辰会の皆様は最高です。皆様の仲間であることに誇りを持ちます。

お世話になりながら、級友の皆様、北辰会に何一つしてこなかったことを本当に申し訳なく、お詫び申し上げます。

健康に恵まれた今、少しでも北辰会のお手伝いのできればと考えています。

素晴らしい文集を送付いただき感謝します。ありがとうございました。